
異界の門

朝比奈 龍太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異界の門

【Nコード】

N3696I

【作者名】

朝比奈 龍太郎

【あらすじ】

異界の門をくぐり、異界へと迷い込んだ雪は生還するために冒険をすることになってしまった。

はたして生還できるのか？

ゲート（前書き）

この作品は処女作ですので至らない部分があるとは思いますが、優しい目で見えていただけると幸いです。

また、残酷な描写等もありますので嫌な方や苦手な方は考えたくえで閲覧ください。

ゲート

「うわっ！逃げろ！」

「ぎゃあああああああ！」

そこは地獄絵図という言葉がぴったりな情景だった。

咽かえるような血の臭いと、おびただしい数の死体、悲鳴と嗚咽、俺はここに来たことを激しく後悔した。

「雪、何してる！今のうちにここを抜けるぞ！」

「あ……あ……あ……」

背後からの声に俺は振り返り、足早にその場を去った。

どれ程の距離を移動しただろうか、見たこともない木々が生い茂る森の入り口付近まで移動した俺達はその場に腰を下ろした。

「ここまで来れば……大丈夫だろう」

鎧を身にまとった推定40前後の男が呟きながら腕の小型PCの様な物を開いていた。

彼の名は仁（じん）、俺がここに来てから行動を共にしている人で、もう2年近くもこの世界にいるらしい。

「雪、まだ慣れないみたいだな」

「ええ、慣れませんよ……こんなところ」

「ここに来てどれくらいになった？」

「10日くらいです」

「そろそろ慣れないと……死ぬぞ」

仁は小型PCを閉じると、一息いれて立ち上がった。

「行こうか、この先にゲートがある」

「そうですね……ここに居るよりは得策ですね」

俺達がゲートと呼ぶ物は、異界の門という別の世界へ繋がっているワープゾーン的な物でこの世界に幾つも存在している。

そして腕の小型PCは近隣エリアのマップや個人パラメーター等を表示する機能を有している。

ちなみに俺と仁のステータスは

名前：仁

カナ：ジン

レベル：30

性別：男

職業：重戦士

攻撃：1340

防御：1000

速度：200

HP：1050 / 1050

SP：0 / 0

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3696i/>

異界の門

2011年1月15日15時00分発行